

令和6年度

企画総務委員会行政視察報告書

☆ 視察事項(視察先)

市民活動交流センター「マルタス」について(香川県丸亀市)

コミュニティバス・デマンド型乗り合いタクシーについて
自動運転バスの運行について(岐阜市)

☆ 視察日

令和6年11月12日(火)・13日(水)

☆ 視察参加者

委員長	中谷 司朗
副委員長	藤井 洋
委員	磯部 孝義
委員	田上 茂好
委員	柳瀬 秀明
委員	森 良介
委員	山根 栄子



事務局	引頭 朋子(随行)
-----	-----------

目 次

市民活動交流センター「マルタス」について(丸亀市)……………	1
--------------------------------	---

コミュニティバス・デマンド型乗り合いタクシーについて 自動運転バスの運行について(岐阜市)……………	5
---	---

視察を終えての所感 ……………	8
-----------------	---

市民活動交流センター「マルタス」について

◆視察日時 令和6年11月12日（火）

午後1時30分～3時30分

◆視察場所 市民交流活動センター「マルタス」

◆視察先対応

丸亀市協働推進部地域づくり課、議会事務局

指定管理者（カルチュア・コンビニエンス・クラブ）

◆丸亀市の概要

丸亀市の概要(R6.4.1 現在)		
人	口	107,845 人
面	積	111.83km ²

丸亀市は、香川県の海岸線側ほぼ中央に位置し、北は風光明媚な瀬戸内海国立公園、南は讃岐山脈に連なる山々、陸地部は讃岐平野の一部で、平坦な田園地帯が広がっている。

年平均気温が約16度、冬季でもおおむね5度以上あり、年間降水量は約1,000mm、年平均の降水日数は100日となっており、温暖少雨の瀬戸内特有の気候となっている。歴史的には、早くから海上交通の要衝として、また物資の集散地として発展し、特に金刀比羅宮の参道口として大いににぎわってきた。「丸亀」の名の起源は、1602年に亀山に築城された丸亀城からといわれており、現在も丸亀城は市のシンボルとして、市民の憩いの場として多くの人たちに親しまれている。

◆視察事項の概要

《施設の概要》

令和3年3月22日開館

・丸亀市市庁舎に隣接

・鉄骨造 地上2階建て

・延床面積 2691.9 m²

・開館時間 9時～21時30分
年中無休

・運営 指定管理者（R3.2～R8.3）

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社



《設置目的》

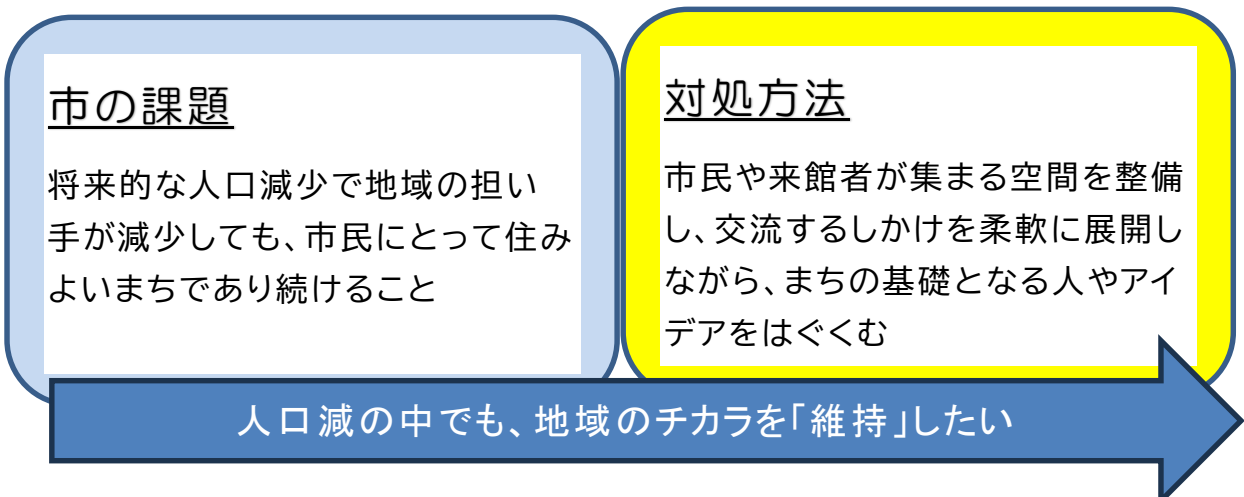
市民および市民団体その他多様なまちづくりの主体の学習と交流を推進し、市民活動への参画意欲の醸成および協働のさらなる発展に寄与するため、市の施策の中核的機能を担う施設として設置された。

《マルタスでの実施事業》

- ① 情報発信事業
- ② 市民活動支援事業
- ③ 子どもを中心とする多世代交流事業
- ④ 学習環境充実事業
- ⑤ 書棚や空きスペースを利用した交流事業
- ⑥ 貸館事業

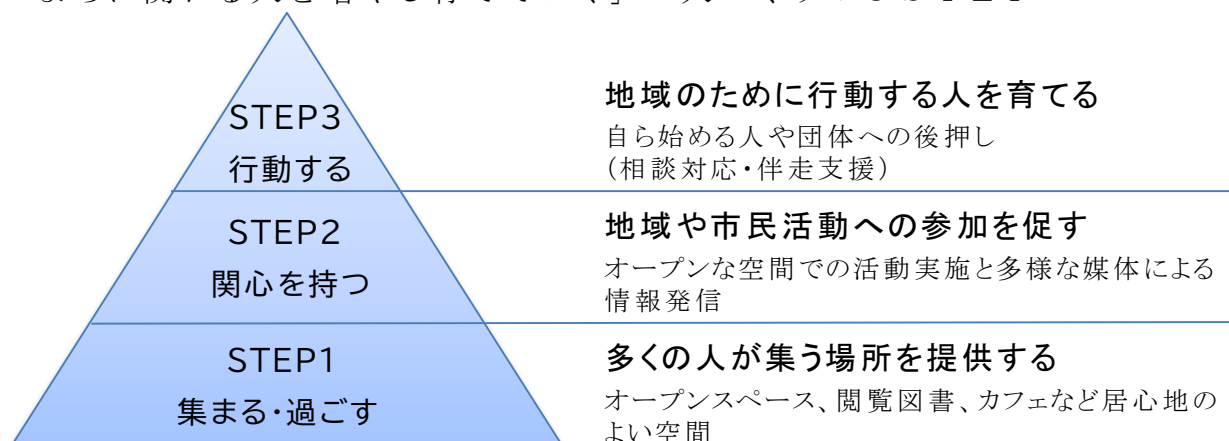


《市民交流活動センターに求められるまちづくりの基本的考え方》



《マルタスにおける取組》

「まちに関わる人を増やし育てていく」⇨人づくりの3STEP





◆主な質問と答弁

Q 建設費とその財源は。

A 複合施設全体で約81.7億円。そのうちマルタス部分は約13億円（面積割）であり、地方債、基金、国県支出金、一般財源、補助金等が財源となっている。

Q 管理運営に係る経費は。

A カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社が指定管理者として

管理運営を行っており、指定管理料は6億7,143万6千円（5年2カ月）となっている。

Q 市民活動登録をすることで、どのようなサービスを受けることができるか。

A 活動場所としてのオープンラウンジの利用、活動支援（企画案についての相談、開催サポートなど）、貸会議室の利用料の減免、情報発信支援、マッチング支援（火と同社・行政・ボランティアなど）、印刷室の使用など。

Q 活動団体数は。

A 11月1日時点で235団体が市民活動登録を行っている。

Q 年間の活動率と予約方法は。

A 会議室の稼働率（稼働率算出方法…利用時間/利用可能時間）は令和5年度約46%。貸会議室はROOMと多目的ホールの2種類あり、窓口、電話、メールで予約可能。ROOMの仮予約は、利用月から3カ月前の月初めから申し込みが可能。多目的ホールの仮予約については、利用月から6か月前の月初めから予約可能。



Q 市民活動に対する補助金等、市独自の制度はあるか。

A 「丸亀市市民活動ステップアップ補助事業」新たな市民活動〔※1〕やその活動の幅を広げる事業などに要する費用の一部を補助（上限10万円）。

〔※1 市民活動とは、自らの責任に基づいて、様々な課題に対し、自主

的・自発的に継続して取り組む営利を目的としない活動。]

「丸亀市提案型協働事業」地域の身近な課題や社会課題に対し、市民活動団体や事業所、大学など各主体の持つ知識や経験を活かし、市と協働して効果的に解決を目指す制度。団体側が課題と考えるテーマについて、募集企画を提案する「団体提案型」と市から示す課題テーマに対応する施策を団体側が提案する「市提案型」の2種類がある。上限は50万円。

Q 開所から3年が経過したが、成果と課題についてどのように考えるか。

A 【成果】

- ・活動する場所ができた。
- ・市民活動の「見える化」で、来館者の興味関心を持ってもらうことにつながり、自ら活動を始める人が増えた。
- ・様々な活動や交流会などを通じて、活動者同士の交流が生まれた。

【課題】

- ・マルタスで行われている活動が、各コミュニティなど地域とつながり、最終的に市全体へ広がるための仕組みが必要。



コミュニティバス・デマンド型乗り合いタクシーについて 自動運転バスの運行について

◆視察日時 令和6年11月13日（水）
午後1時30分～3時30分

◆視察場所 岐阜県岐阜市役所

◆視察先対応

岐阜市都市建設部、議会事務局、BOLDLY株式会社

◆岐阜市の概要

岐阜市の概要(R6.4.1 現在)	
人 口	399,492 人
面 積	203.60km ²

岐阜市は昔、「井の口（いのくち）」と呼ばれ、戦国武将・織田信長公が「岐阜」の名を全国に広めた。岐阜県の中南部に位置し、岐阜県の県庁所在地および人口が最多の市で、中核市に

指定されている。東海三県の中では名古屋市、豊田市に次ぐ人口である。古代から長良川を利用した水運が行われており、近世には尾張藩が水運の要所として長良川役所を設置し、商業都市へと変遷した。長良川の水運はさらに盛行し、材木・和紙・糸等を扱う問屋や手工業が発達した。中京圏に属し、名古屋市のベッドタウン的な性格を持つ一方で、岐阜県の行政・商業・情報の拠点として機能している。

◆視察事項の概要



《コミュニティバス(ぎふっこバス)について》

路線バスを補完し、地域内における日常生活の移動手段を目指し、地域住民・行政・交通事業者が一体となった「市民協働の手づくりコミュニティバス」を運行している。(市内20地区のうちコミュニティバス19地区、デマンド1地区)

コミュニティバス導入の考え方と運行地区

導入の目的として、地域交通ネットワークの確立、高齢者等交通弱者の日常生活における移動の確保、公共交通空白地・不便地域の改善、中心市街地の活性化が挙げられている。

運行計画の基本方針としては、次の4点が示されていた。

- 1 運行計画（ルート、バス停、運賃等）は地域住民が主体的に策定する
- 2 路線バス、鉄道及びコミュニティバス間の乗継バス停を設置し、公共交通ネットワークを確立する
- 3 公共交通空白地・不便地域の改善
- 4 路線バスと競合しないルートにする

コミュニティバスを支える市民協働の仕組み

- 1 地域住民が主体となった運営協議会を設置し、3者が連携する
- 2 地域住民が計画段階から参画し、自らが経営感覚を持って運営する
- 3 地域住民自らが利用促進に取り組み、収入と経費のバランスを考え運賃等も設定する

持続可能なコミュニティバスの構築

- 1 地域が、継続的に運行計画の改善に取り組む ➡ 最も効率的な運行
利用者の増加
- 2 行政が、効率性・補助額のチェックを行う ➡ 財政的に持続可能となる

運行継続の流れ

試行期間(2年間)



試行運行の最終年度に運行実施基準を達成



本格運行(3年間)



本格運行の最終年度運行実施基準を達成

地元コミバス等運営協議会の取組

- ・ 運営計画の見直し
- ・ 各種地域努力の実施
(広告収入確保、啓発事業など)

利用促進の取組

平成 18 年 4 地区でスタートしたコミュニティバス事業は、利用者が年々増加しており、コロナ禍でいったん減少したものの、利用者数は回復基調にある。(累計利用者は令和 6 年 10 月末 691 万人)

利用者増に向けて、様々な取組を行っている。

取組1 お出かけバスカード

70 歳以上に交付。コミバスと岐阜バスが 2 割引きで利用可能

取組2 全地区共通一日乗車券

市内全地区のコミバスを 1 日に何度も乗継利用可能

コミバス車内で販売し、大人 200 円 (小人 100 円)

取組3 乗継プランの案内

楽しい利用方法を紹介し、テーマ別に乗継プランを作成

取組4 バスまちばの開設

バス停近くの店舗内等にバスの待合所を設置

待合所内にはバスの到着を知らせる デジタルサイネージを設置



《自動運転バスの運行について》



2023 年から 2028 年までの 5 年間、自動運転バスが、岐阜駅から市役所までの中心部ルートと、岐阜駅から岐阜公園などの観光地を周遊する岐阜公園ルートを運行している。

乗車方法は、原則電話または L I N E 予約システムによる事前予約制度になっており、空席がある

場合は予約なしでも乗車できる。

5 年間の間にレベル 4 の自動運行となるよう目指しており、現在のところは、操作者が同乗したレベル 2 の運行となっている。



委員長 中谷 司 朗

★ 市民交流活動支援センター「マルタス」

市庁舎に隣接する当施設は、市民活動への参画意欲の醸成、協働の進展を目的に、令和3年から供用されており、市民のシンボル丸亀城にも近く好立地であり、平日にもかかわらずにぎわっていた。

運営を任されているCCCは、武雄市や周南市、海老名市等の図書館事業も受託するなど全国展開している。この分野では最先端の企業であり、若者受けする施設展開等はお手の物である。

若者や幼児連れの層のみならず、多彩な講座や各種教室等で、高齢者層にも訴求する事業展開にも脱帽である。

下松市でもこうした市民活動の活性化・充実は、既存の施設をうまく活用すれば工夫次第で可能であり、市民力をさらに一段階アップする取り組みに各地域で取り組んでいければと思う。

★ コミュニティバス・デマンド型乗合タクシー、自動運転バスについて

日本で初めて中心市街地における自動運転バスの5年間の継続運転を試行中であり、自動運転のレベル4の実現に向け、順調にデータを取得中のようである。

市長の公約で始まった実証実験ではあるが、実用化のめどはともかく、全国に発信できたおかげで、視察や観光客が増加し、市民の誇りや愛着（シビックプライド）の醸成にもつながるという副次的効果が大きいと感じた。

コミュニティバスの運営に市民協働の仕組みを取り入れ、行政、交通事業者、地域住民が一体となって取り組んでいる。住民にも財政的な効率重視の視点で責任の一端を負わせることが重要だと再認識した。



副委員長 藤 井 洋

★ 丸亀市市民交流活動センター「マルタス」

市役所の老朽化に伴い市役所と隣接した形で同時に建設された施設であった。指定管理者はおなじみのカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社である。外観は独創的で素晴らしく、館内はスターバックスが入っていて、オープンラウンジの形態だった。2階には会議室が数部屋程あり、外から中の様子がうかがえた。全てが壁で仕切られている「ほしらんどくだまつ」とは違っていた。狙いは、誰もが気軽に立ち寄れる雰囲気づくりと市民活動の「見える化」だそうだ。登録市民活動団体は訳 250 あり、共同で活動することもあるとのこと。

市民活動の相談窓口もあるそうで、指定管理者が社内教育により教育した担当者がいるそうで感心した。相談件数も多く、活動の盛んさがうかがえた。毎月のイベント情報を発信するための小冊子も発行しており、子ども向け、大人向けの情報が満載である。

この施設の基本的な考え方は、これから避けては通れない人口減少にあった。将来的に人口が減っていくことを前提にしながらも地域力を落とさないために、活力ある人材を確保していくことが大切ではないかということを学んだ。若い世代が住みやすいまちづくりが必要だと思った。

★ 岐阜市コミバス・デマンドタクシー、自動運転バス

担当部長の熱弁は主に市街地再開発や公園整備事業であった。

公共交通の利便性向上については工夫が見られたのは、地域住民が主体となった協議会を設置していることだ。コミバスをみんなで守っていくという意識が生まれる。

県内のコミバスの運行地区は徐々に件数を伸ばし、19 地区にある。財政負担は赤字補填で 2.7 億円。安くはない。バスの待合施設に関して「バスまちば」という名称で行っている事業がある。停留所の近くにあるコンビニに協力してもらい、バスの待合にそこを利用しても良いというものだ。バス停を移動してもらったこともあるそうだ。店内にはバスの情報が分かるよう、デジタルサイネージを設置している。民間の協力があってのことだが、一考の価値あり。待合設備を整備するより、ずっと安価だ。

そのほか、福祉政策としてのバス割引カード、コミバス一日乗車券、昼得切符など利用促進への取組がみられた。

最近、さらなる利便性向上を狙って、デマンドタクシーを導入したとのこと。

最後に自動運転バスに乗車した。複数の車線を走れば問題は少ないが、1車線の道路では後続車に大変迷惑をかけているような場面もあった。本市に導入したときに、走れるルートはかなり限定的になるのではないか。信号情報を伝えるカメラが設置されていたが、1基1500万円ということを知り、さらに導入は難しいと感じた。

委 員 磯 部 孝 義

★ 香川県丸亀市

○人口減の中でも、地域の力を「維持」したい。「まちに関わる人を増やし育てていく」との思いで、所管の協働推進部 地域づくり課と運営の指定管理者（カルチュア・コンビニエンス・クラブ）の意欲とアイデアが満載の取組および施設と感じた。

○市民や団体など来館者が交流する仕掛け（オープンスペース）、まちづくりに関わるきっかけづくりとなる、施設内のレイアウト、工夫（相談コーナーや資料の見せ方など）が伝わった。若い世代の意欲、交流イベントにもつながっており、協働のまちづくりに向け、参考にすべきと考える。

○視察前に見学した、スポーツパークや体育館でも若い世代（中高生や子育て世代）にやさしい取組み・施設整備が進められている。しっかり市民、団体、事業者、学校などとの対話をし、市民協働を進めることが重要と感じた視察であった。

★ 岐阜県岐阜市

○所管が都市建設部 交通政策課で、道路整備・まちづくりなど大きな視点で公共 交通に取り組まれていると感じた。歩きたくなる道路空間の考えも良いと思う。

○総合交通計画の中でしっかりと考え方・方向性（将来像、4つの基本方針）が示され、市民ひとり一人が自分ごととして捉える仕組み・周知が重要と感じた。

○コミュニティバス導入については、地域住民が計画段階から参画し、自らが利用促進に取り組むなどの仕組みで、「市民協働の手づくりコミュニティバス」と掲げ展開されている。地域のリーダーの力量で支えられている部分もあるが、地域が主体的に携わることの大事さを感じた。

○「バスまちば」（コンビニなどをバスの待合に利用）は、下松市でも検討が進められているが、すぐにでも検討・推進が図れる取組みと考える。

○自動運転バスの乗車体験をした。将来的には必要な事業だが、費用対効果の分析がまだ必要だと感じた。岐阜市の先進地としての誇りを強く感じた。

○タクシー・路線バス事業者、地域と一緒にあって、その地域に合った公共交通のあり方を見つけ出していくことが重要と感じた視察であった。

委員 田上 茂 好

★ 香川県丸亀市

市庁舎に隣接して建設された市民交流活動センター「マルタス」の建設費は約13億円、開館時間はAM9：00からPM9：30、年中無休とのことだった。市庁舎の一部局に配置するのが通常であると考えるが、市民活動を支援することに特化した施設を建設すること自体に驚くとともに、関係者の並々ならぬ意気込みを強く感じた。その背景には、将来的な人口減少の中でも、まちに関心のある人が交流するしかけを柔軟に展開することで、まちの基礎となる人を育み、地域のちからを維持しなければならない、人に活力があることが重要だとの思いがある。多くの人が集う場所を提供する中で、地域や市民活動への関心を促し、地域のために行動する人を育てるという人づくりを進めている。市民からは、気軽に何気なく立ち寄れる場所と好評のようであった。

市民活動を見える化することで、自ら活動を始める人が増えたと評価する一方で、地域との繋がりに課題を残しているとのこと。地域コミュニティーの醸成に成功できるかどうか、市政運営の重要な観点になることを再認識させられた。

★ 岐阜県岐阜市

岐阜城と織田信長、長良川と鶺鴒、誰もが知っている歴史の色濃く残るまちである。

視察の目的はコミュニティバス、デマンド型乗合タクシーと自動運転バスの運行状況と交通政策の位置付けだったが、当市がトップランナーと自負する自動運転バスの取組は圧巻と言えるものであった。この取組は市長の公約によるものとのこと。もちろん、乗車賃は無料。

岐阜市では、道路空間を活用したまちづくりを目指しており、車中心から人中心に転換することで、居心地がよく歩きたくなる、まちなかづくりを行っている。いわば、毎日が歩行者天国だ。人口約 40 万人の中核市が取り組もうとする施策は、規模も視点も大胆だと感じた。自動運転バスに乗車したが、まだ完全な自動ではなく、サポートする職員が同乗しており、交通事情に応じて対応している。体調を崩した乗客への緊急の対応など、様々な課題が残されているが、5 年後には、運転については基本的に解決するとしている。

未来に向けての希望ある取り組みとして注視していく必要を感じた。

委 員 柳 瀬 秀 明

はじめに、丸亀市や岐阜市の議会事務局をはじめ、担当職員の丁寧な対応や熱意溢れる説明に、本気度を感じる大変内容の濃い視察となりました。大変にありがとうございました。

★ 市民活動交流センター「マルタス」について

市民活動交流センター「マルタス」は、令和 3 年 3 月に開館して 4 年目を迎えている。丸亀市役所庁舎に隣接しており、庁舎へも直接繋がり市民の利便性を考えた施設だ。「マルタス」は丸亀市地域づくり課が担当しており、運営は指定管理者として、CCC(カルチュア・コンビニエンスクラブ)が

運営している。「マルタス」のコンセプトは市民活動の人材育成とすることで、「まちに関わる人を増やしていく」取組をされている。まず感じたのが、活動拠点づくりのノウハウを持つプロの民間事業者の運営ということで、施設内は洗練されたつくりで、つい誰もが立寄ってみたいくなる雰囲気があった。

市民活動相談窓口では市民活動ノウハウ研修を受けた職員が対応され、誰でも気軽にアドバイスを受けられ活動を手助けしていた。素晴らしい取組みだと感じた。

特に感じたことは、オープンスペースを活用して活動の見える化をしており、市民の関心を促す取組が素晴らしいということだった。又キッズスペースも整備され、親子で参加できる取組も参考になった。

「マルタス」の利用実績も、令和5年度の年間来館者数約80万人(1日平均約2千人)、年間活動件数約950件(月平均約80件)、活動参加数約1万人と驚くべき数字だ。丸亀市の人口約10万人の年間8倍の人が来館していることになる。

丸亀市は本市と同様に製造業のまちということで、若い男性も多いとのこと。視察途中に立ち寄った総合スポーツ公園では、本年2月より公園の一角にスケートボードや3×3専用バスケットコートが新設されおり若者を大切にすするまちづくりをしていると強く感じた。

本市におきましても、民間事業者を活用した市民活動の取組、こどもや高齢者だけでなく若者を大切にすするまちづくりが必要だと感じた。

★ コミュニティバス・デマンド型乗り合いタクシーについて

★ 自動運転バスの運行について

岐阜市都市建設部様より、岐阜市のまちづくりについて都市計画や公共交通整備について縷々説明を受けた。特に本市同様に人口減少対策として、公共交通網の構築に力をいれて、先進的な取組をしている。

特にコミュニティバスを推進しており、小学校区の自治会連合会単位でのコミュニティバスを運用している。例えば路線バス・コミュニティバスの各自治会区域の乗り継ぎ。一日共通乗車券200円。平日昼間限定の一日乗り放題500円の昼得きっぷの販売など市民の利便性を図り、公共交通の利用促進を図っている。

コミュニティバスの課題としては、自治会によって利用者の差があり、まだまだ赤字運用で市の負担も大きいところもあると感じた。利用促進と

しては、全国交通系 IC カードのサービスを今年度より開始しており、さらなる利便性も図っている。

本市でも活用したい取組みとして、「バスまちば」がある。

令和 5 年 12 月よりコンビニやドラッグストアなどと協定を結び、店舗をバスまちばとして活用している。店内にバスの運行状況が分かるデジタルサイネージを設置しており、買い物や休憩しながらバスを待つ仕組みだ。天候を気にせず快適にバスを待つことが出来る。

大変好評とのことで、本市でもまちなかの店舗を活用して、バスまちば設置について検討すべきではないかと感じた。

また運転手不足解消のために、5 年間の自動運転バス実証実験中で、市内中心地や観光地などを自動運転バスが無料運行している。岐阜市は全国の実証実験先駆けとして、市・県レベルではなく全国をリードするという気概で職員全員が自信をもって公共交通施策に取り組んでおり、熱心さが我々にも伝わってきた。

バスのデザインも真っ赤な色でどこからも目立つようにしており、アピールや事故防止にもつながっている。先進的に取り組んでいるとはいえ、路上駐車や交差点の運転など課題も多く、無人運転までは数年はかかる見込みとのこと。実際に市内中心部ルートに乗車し、乗り心地や自働運転の仕組み、走行中の注意点又課題点なども伺うことができ、学ぶ点が多くあった。また周南市での実証試験中の自働運転バスにも、実車したいと感じた。

今回の視察で感じたことは、コミュニティバス(マイクロバス)を小学校区単位で運用し、スーパー、病院、市役所に行きやすくすること。更に安い運賃で利便性を図ること。将来的に自動運転バスが実用化された場合は、市内中心部や文化・観光地コースなど走らせることなど出来れば、市民生活の利便性は向上するのではないかと夢が膨らみました。

今回とても良い視察が出来てありがとうございました。

岐阜市では合わせて、空き時間に見学した滞在型市立図書館「みんなの森ぎふメディアコスモス」も民間事業者を活用して、コンビニやカフェも入って市民に親しまれる雰囲気図書館であった。1 階には市民活動支援の相談窓口も併設しており、市民活動拠点としても活用されていた。こちらも丸亀市の「マルタス」同様に参考になった。

委員 森 良 介

★ 丸亀市市民活交流動支援センター「マルタス」

丸亀市は平成 17 年に丸亀市と 2 町が合併し新丸亀市となり、10 万 7 千人の香川では高松市に次ぐ第 2 の都市である。

建設の経緯は、庁舎の建て替えに伴い、市民活動交流センター条例を定め、令和 3 年 3 月に開館した。

この「マルタス」は、(1)情報発信事業(2)市民活動支援事業(3)こどもを中心とする多世代交流事業(4)学習環境充実事業(5)書棚や空きスペースを利用した交流事業(6)貸館事業の 6 つの事業を展開する。行ってみれば大きな公民館と言ったところか。

公民館との棲み分けは、市民活動と生涯学習の違いで分けていると説明を受けた。生涯学習も市民活動の中の一部ではないのか？

運営はプロポーザルにおいて、民間の TUTAYA の子会社、指定管理を手掛ける会社が運営しており、センターの計画運営から、カフェの参入による集客と賑わいの創出には専門性を感じる。

登録も 235 団体に上り、更新は年 1 回行われる。館内はとても清潔で明るく広く、賑わっており、市内の中央に集約された機能美あふれる施設があれば、これだけの団体の登録と賑わいが創出できるのかと感じた半面、地域の公民館（コミュニティーセンター）は、閑散とした様子が想像でき、そこでの参加の固定化、次世代を担う人材の育成が進まず、地域コミュニティーセンターは何するところぞ、と考えを巡らせ、地域での世代を超えたおつきあい、地域力低下が懸念を抱いた。

★ 岐阜市コミュニティバス・デマンド型乗り合いタクシー

人口 40 万人の岐阜市も人口減少に抗えず、岐阜市では、岐阜圏域全体の発展を推進する「岐阜センターゾーン」計画を立て、都市建設部による街づくりが進められている。エリアを目的別に分け、放射線に 8 幹線伸びており、幹線の強化にのりだす。その先々に 19 のコミュニティバス、1 デマンドタクシーが定められ運行している。

運営は民間バス事業者で運営されており、利益も追及され、赤字部分を行政が負担しているという。その額は 2 億 7 千万円になる。

特徴的だったのは、バス停の設置の仕方であった。「バスまちば」とよばれる、コンビニ店内にバス接近情報を表示するデジタルサイネージ等

の設備を設置し、店内のイートインスペース等で、雨や風などの影響を受けることなく、快適にバスを待つことができる中部地方初の取組だ。これは全国にも展開され始めているという。そのほかにおいては法的なものが絡むことは想像できる。

また、運行までには、地区ごとに協議会を立ち上げ、停留所、運賃、ルート等、全て住民で協議する。キーマンが一人いれば話は早いということだった。その通りだ。

岐阜市内には自動運転バスが走っているが、市長の肝いりのようで、展開が早い。本市においても、一歩踏み出すための気持ち次第、特に施策の優先順位で全てが決まるのだと再認識した。

委 員 山 根 栄 子

★ 市民交流活動センター「マルタス」について

丸亀市市庁舎に隣接している市民交流活動センター「マルタス」は、令和3年2月～令和8年3月の5年間をカルチュア・コンビニエンス・クラブ（株）に指定管理委託を行っている。

この「マルタス」では、①情報発信事業 ②市民活動支援事業 ③子供中心他世代交流事業 ④学習環境充実事業 ⑤書棚や開き空きスペースを利用した交流事業 ⑥貸館事業を行っている。

将来的な人口減少で地域の担い手の減少することと市民にとって住み良いまちであり続けること、市の抱えるこの課題に対しどう対応するかを模索し、対処の糸口として取り組んだのが、この市民交流活動センター「マルタス」である。

「まちに係わる人を増やし育てていく事」を主眼とし、この場で市民や来館者が集まる空間を整備し、交流する仕掛けを柔軟に展開しながら、まちの基礎となる人やアイデアを育む事を目的に事業展開されている。

人づくりと一口に言っても、人を育てていく事はそう簡単な事ではない。何かやりたい、と思う人の何かをサポートし、形にしていく事や。人々が集う場所を提供する。これは本市においては公民館活動がその一役を担っているが、何かをしたいという思いをサポートするといった機

能までは備わっていない。それが、この「マルタス」で出来ているのは指定管理会社であるカルチュア・コンビニエンス・クラブが全国展開し、人を育て引き上げるノウハウを持ち、洗練された強い情報発信能力を備えているからでもある。また地域や市民活動へ市民の関心を促す取り組みや、更にそこから地域の為に行動する人を育てる取り組みが行われており、これらに参画する活動団体は実に 235 団体にもものぼる。これらの団体が毎年 1 度事業計画を提出し、事業活動を行っているとの事であり、ただの数だけの集まりではない事が伺える。丸亀市独自の取組である市民活動ステップアップ補助事業や、提案型共同事業等に補助金をつけ、さらに市民の活動を後押ししている。

「マルタス」内を見学をさせて頂いたが、随所に市民の熱気の息吹きを感じる事ができた。人を育て、人の力が街の活気を生み出すことに成功している事例であると言える。

★ コミュニティバス・デマンド型乗り合いタクシー・自動運転バスの運行について

この視察の目的は本市の公共交通の取組が中々進まない中、全国ではどのような取り組みが行われているのか、また技術の発展が我々の生活にどう変化を及ぼしつつあるのか、先進的な取り組みをしている岐阜市を視察し、少しでも新しい知識を持ちかえり、本市に提言する事ができればと考えた。

ここで注目したいのは公共交通という観点だけでこの事業を捉えておらず、岐阜市のまちづくりという観点から、岐阜市都市建設部 交通政策課と SOFTBANK の子会社 BOLDLY の市場創生部社会実装課が連携し公共交通まちづくりを日々検証・研究している点だ。

ただ市民の足となる公共交通網形成をつくっていくだけではなく、道路空間をどう活用し、地域の活性化につなげていくのかという視点が入っている。

今回私自身視察の一番の注目は自動運転バス、試乗体験を重点に置いていた。無人でいかに安全に運行できる所まで出来ているのかだ。しかし実際はまだまだ完全無人とまではいっておらず、今年度で研究を開始し 5 年目となっているが、なんとか一般公道を走り、信号機が変わった時や、突然の車などの飛び出しを感知し、急停車することが出来る所までできていた。しかし前方に駐停車の車がいた場合、添乗した職員が手動でリモコン操作し障害物をよけ、主線に戻ったと同時にまた自動へと変

更となり走行するといった状態だった。さらに雪が降ると、降る雪に反応し停止してしまう等の課題もあるようだ。今年はさらに車線合流時の後ろから来る車をよけつつ主線に入っていく事や、右折の際安全に右折できる外部環境の整備に取り組むとの事だった。

この事業は国から 100%の予算がついている事が多く又提携している BOLDLY の力も大きい。しかしもっとこの事業の促進を後押ししているのは、このセクションの事業に取り組んでいる執行部職員が自分たちの仕事に誇りを持ち、日本の最先端の取り組みをし、日本全国の課題である公共交通の問題解決の糸口に自分たちが取り組んでいるんだ、日本全国に発信できる取り組みをやっているんだという自信と意欲に満ち溢れている所にあると感じた。自分たちの取り組む事業に熱意と誇りをもって取り組めるそんな仕事にこの自治体は取り組んでいる

